



みんなで考え、みんなでつくる

地域の支え合い事例集

～江南市生活支援体制整備事業～



○ 目 次 ○

1	はじめに	4
	○本事例集のご案内○	
	○本事例集の3つのねらい○	
	○事例集を手にとってくださった方へ○	
2	生活支援コーディネーター（生活支援体制整備事業）とは	5
	（1）生活支援コーディネーターとは	
	（2）江南市生活支援体制整備事業の概要について	
3	実践事例	7
	（1）第2層 北部圏域	
	①藤ヶ丘区「江南団地自治会」	8
	②前飛保区「マツオカ(衣料品店)とタキデンキ(電気屋)」	10
	第2層 中部圏域	
	③古知野区「ほのぼのサロン」	12
	④飛高区「飛高運動教室」	14
	第2層 南部圏域	
	⑤安良区「安良健康サロン」	16
	⑥小折東区「観音寺サロン」	18
4	参考資料 「生活支援コーディネーター紹介チラシ」	20



1. はじめに

○ 本 事 例 集 の ご 案 内 ○

現在、江南市内で「生活支援体制整備事業」が推進され、事業を受託する江南市社会福祉協議会（以下「社協」という。）は、地域包括支援センター圏域に3名の生活支援コーディネーターを配置しています。

生活支援コーディネーターは、高齢者がお住まいの地域で、元気でいきいきと暮らし続けられるよう、住民やさまざまな関係団体と連携しながら、介護予防の取組み、居場所づくり、生活支援の活動などを推進しています。

事業の展開から間もなく3年が経過する中で、各地域で生まれつつある多様な実践について、江南市内での共有と発信を図るために、事例集を作成しました。

○ 事 例 集 の 3 つ の ね ら い ○

①生活支援コーディネーターの役割が見える化する

生活支援コーディネーターと一緒に地域づくりを行う、住民や関係者の方々に支援内容やその役割を伝えるものとして作成しました。

②各地域での多様な取り組みの発信

各地域で取り組みのある居場所や生活支援など、情報発信することで、他地区への展開へと広げていく可能性があります。そのような視点から特に関わりがある地域の実践をまとめました。

③ネットワーク機能の構築や資源開発のきっかけ

多様な主体者との連携、関係者間の情報共有の仕組みづくりや地域づくり、地域主体による支え合い活動など、資源開発、担い手づくりのきっかけにしていきます。

○ 事 例 集 を 手 に 取 っ て く だ さ っ た 方 へ ○

地域での支えあい活動や居場所づくりを検討している方は、お気軽に社協の生活支援コーディネーターまでご相談ください。また、地域での活動状況を把握するため、町内自治会、老人クラブ、NPO団体、ボランティアグループ、民間事業者などから、地域づくりにつながる情報収集、情報発信も行っておりますので、是非、生活支援コーディネーターまで情報をお寄せください。

リハ職ですが、健康づくり
でお手伝いできますよ



〇〇公園でラジオ体操
誰でも参加できるぞ



体力仕事なら地区で活動でき
るよ。何かあるかな？



生活支援コーディネーター

2. 生活支援コーディネーター(生活支援体制整備事業)とは

■ 生活支援体制整備事業とは

一人暮らしや夫婦のみの高齢者世帯、そして認知症の方が増えているなかで、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、医療や介護のサービス提供のみならず、地域の中に居場所があることや地域で助け合い、支えあう仕組みづくりが必要です。地域の「あったらいいな」の実現、「ちょっと困った」の解消を目指した取組みを地域で行うことが求められています。

■ 生活支援コーディネーターとは

高齢な方の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的とした職員（生活支援コーディネーター）を社協が市より委託を受け配置しています。生活支援コーディネーターを市全域（第1層）に1名、地域包括支援センター圏域（第2層）に3名配置しています。

活動区域	配置人数	職員名
第1層（市全域）	1名（第2層と兼務）	伊藤 光洋
第2層（北部地域包括支援センター圏域）	1名（1/3 人工）	伊藤 光洋
第2層（中部地域包括支援センター圏域）	1名（1/3 人工）	小森 詩織
第2層（南部地域包括支援センター圏域）	1名（1/3 人工）	鈴木 秀明

【表記の配置は令和元年度】

- ※1 社協では福祉活動専門員かつ生活支援コーディネーター養成研修修了者を配置
- ※2 第1層生活支援コーディネーター1名は第2層生活支援コーディネーターと兼務
- ※3 生活支援コーディネーターは江南市社協の業務（福祉活動専門員）と兼任

■ 江南市生活支援体制整備事業の概要について

（1）江南市生活支援体制整備事業の位置づけ

平成27年度の介護保険制度改正により、平成29年4月から「江南市生活支援体制整備事業」を開始し、日常生活上の支援が必要な高齢者が、今住んでいる地域で生きがいを持って地域生活を継続していくために、地域づくりを基盤とした、地域の互助（支え合い）を高めながら高齢者の生活を支える体制づくりを進めていくこととしました。

（2）江南市生活支援体制整備事業推進における方向性

【高齢者が日常生活を営むうえで必要なこと】

「安心」の確保が
最も重要な基盤

- | | | |
|------------|---|------------------------|
| ①「安心」の確保 | ⇒ | 自分のことを気にかけてくれる人がいる |
| ②「日常的な家事」 | ⇒ | 買い物や掃除、調理、布団干し等 |
| ③「外出」 | ⇒ | 通院や買い物 |
| ④「交流」 | ⇒ | 友人や知人とのコミュニケーション |
| ⑤「非日常的な家事」 | ⇒ | 蛍光灯等の交換等、日常生活で不意に起こること |

生活支援ニーズは記載した5つのことのどれかが上手いかなくなった時に生じるものであり、特に「安心の確保」が最も重要な基盤であります。そのためには「早期発見」「危機管理」「情報支援」「不安解消」の要素を意識した取り組みが必要になってきます。

【基本コンセプト】

江南市生活支援体制整備事業は地域づくりを基盤とし、地域の支え合い体制を支援する仕組みを構築しなければならない状況がある一方で、地域の実情に応じたコーディネートなどを行っていかねばなりません。

江南市生活支援体制整備事業の基本コンセプトは次のとおりとします。



アイデアを持って、
地域づくりを考えます！

**制度の趣旨に反しない限り自由に、
暮らしの支え方の柔軟性を担保する**



限定せずに柔軟に！！
民間団体・企業の協力も！

生活支援体制整備事業は自由度が極めて高く、地域福祉やまちづくり施策などと連携しながら関係者と共に進めていく必要があります。

そのために、生活支援コーディネーターとしては、地域で安心した暮らしを目指すために、行政や地域包括支援センターなどと連携し、地域の高齢者の日常生活のニーズ及び地域資源の状況を把握し、以下の5点を総合的に支援・推進していきます。

①地域の高齢者支援ニーズ
と資源の見える化及び問
題提起

②地縁組織などの多様な主
体への協力依頼等の働き
かけ

③関係者のネットワーク化

資源開発

ネットワーク機能の構築

ニーズと取り組みのマッチング

協議体設置に向けた準備

④目指す地域の姿・方針の
共有、意識の統一



⑤生活支援サービスの担い
手の養成及びサービスの
開発

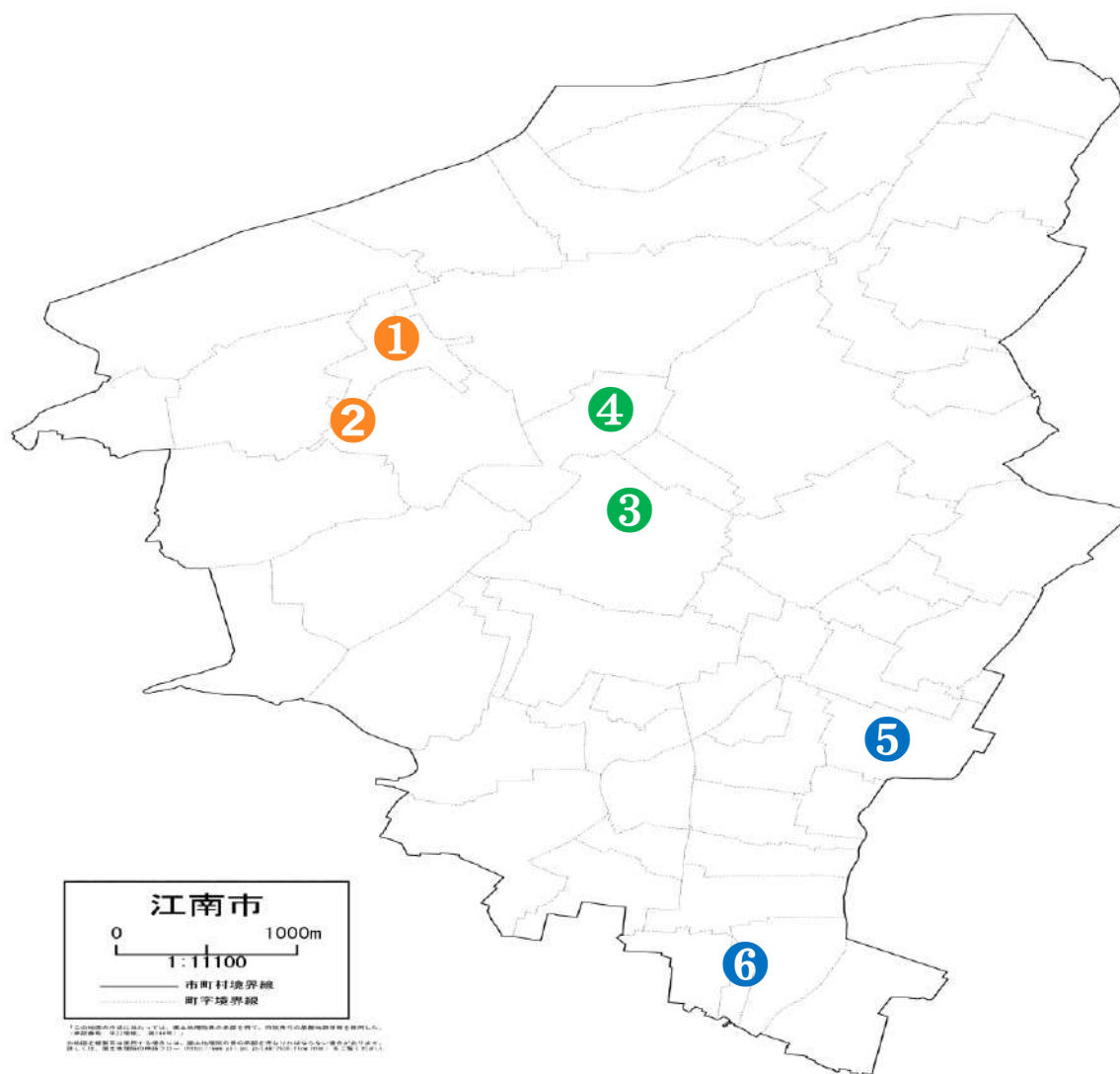
3 実践事例（第2層 北部・中部・南部圏域）

（1）第2層 北部・中部・南部圏域

江南市では各地域包括支援センター圏域を第2層として、生活支援コーディネーターを3名配置し活動しています（内、1名は第1層と兼務）

番号	活動団体	事例タイトル
①	【藤ヶ丘区】 江南団地自治会	～自治会による多様な支え合い活動を展開～
②	【前飛保区】 マツオカ(衣料品店)とタキデンキ(電気屋)	～商業施設ピナ店でのサロン活動～
③	【古知野区】 ほのぼのサロン	～江南市内におけるサロンの源流～
④	【飛高区】 飛高運動教室	～運動だけに留まらず 学びの活動を展開！！～
⑤	【安良区】 安良健康サロン	～グランドゴルフの仲間から地域の活動に展開～
⑥	【小折東区】 観音寺サロン	～お寺の運営維持と地域の憩いの場の展開～

◆各事例は令和2年3月時点の内容を基本として作成しています



2 実践事例（第2層 北部圏域）

①【藤ヶ丘区】 江南団地自治会 ～自治会による多様な支え合い活動を展開～



活動内容/特徴

- ☞ 毎月第4水曜日に「ふれあいサロン藤ヶ丘」を実施（参加者約60名）
- ☞ 見守りボランティアの会による「見守り活動」「ゴミ出し支援」「認知症徘徊者声かけ訓練」を実施
- ☞ 週5回、ボランティアによる居場所活動「ゆう愛ステーションはなみずき」を実施

活動のきっかけ

愛知県の高齢者等地域見守り（生活支援）ネットワーク構築推進事業を機に、江南団地自治会が中心となり、認知症を理解するための啓発活動（パンフレット作成）、他地域の集合団地の事例による講演会、見守り活動、サロン活動が始まりました。

生活支援コーディネーターの役割、支援内容

- ・ 協議の場への参加やスタッフの方々との情報共有
- ・ ふれあいサロン藤ヶ丘やゆう愛ステーションはなみずきの助成支援
- ・ 認知症徘徊者声かけ訓練やゆう愛ステーションはなみずきの活動支援





自治会を中心に多様な支え合い活動を展開！～活動の広がり～

愛知県の高齢者等地域見守り（生活支援）ネットワーク構築推進事業では、認知症の啓発パンフレットを作成し世帯への配布や居場所づくり活動として、「ふれあいサロン藤ヶ丘」の活動が始まりました。また日常生活で気になる方々の見守りが地域の孤立化を防ぐことにつながることを目的に「見守りボランティアの会」が立ち上がり、定例会では個別事例を共有や勉強会、年1回の認知症徘徊者声かけ訓練を継続実施しています。

UR（都市再生機構）と江南団地自治会との共同事業により「地域医療福祉拠点化」事業により、江南団地商店街の空き店舗を改修し、常設型のコミュニティスペースとして「ゆう愛ステーションはなみずき」が始まり、週5回、10時から16時まで曜日ごとに午前中は折り紙、手芸、絵手紙、トランプ、カルタ等が行われ、午後は囲碁・将棋で賑わっています。また、住まいセンターの生活支援アドバイザーや地域包括支援センター等と様々な関係機関と連携し、支え合い活動を展開しています。



活動団体情報

【活動団体】：ふれあいサロン藤ヶ丘

【開催日時】：毎週第4水曜日

午後1時30分～3時30分

【開催場所】：江南団地集会所

【活動団体】：ゆう愛ステーションはなみずき

【開催日時】：水・日・祝日・年末年始を除く
午前10時～午後4時

【開催場所】：江南団地商店街の店舗

生活支援コーディネーターのつぶやき

江南団地は自治会、民生委員、ボランティアを中心に、住民のペースで実践が形になり、「誰かがやるのではなく、私たちがやる」仕組みができたことが、地域づくりの最大の財産になっています。



2 実践事例（第2層 北部圏域）

②【前飛保区】マツオカ（衣料品店）とタキデンキ（電気屋） ～商業施設ピナ店でのサロン活動～



活動内容/特徴

- ☞ 毎月第1水曜日に「マツオカピナサロン」を実施
- ☞ ピナ店のマツオカ（衣料品店）、タキデンキ（電気屋）、喫茶店など、お店の得意分野で居場所づくり活動に協力できる体制がある
- ☞ 買い物だけではなく、お客さんの居場所として多様な活動を実施

活動のきっかけ

ピナ店のお客さんの中には、身体が不自由な方や、同じものを必要以上に購入してしまう方がいるため、大切な地域のお客さんだからこそ、お店として介護予防できる居場所づくりができないか模索し、活動が始まりました。

生活支援コーディネーターの役割、支援内容

- ・ サロン活動の立ち上げ支援や活動助成金等の運営サポート
- ・ チラシ作成によるサロン活動の周知や啓発活動のサポート
- ・ 活動プログラム作成のための関係団体や専門職のコーディネート



地域づくりのすてきなポイントに注目



「気になる人（お客）」×「居場所の必要性」×「お店の強み」

～誰もが参加できる居場所に～

「お店のお客さんで気になる人」の存在から、お客さんの「居場所の必要性」を感じ、居場所づくりに前向きな、前飛保町にあるピナ店内のマツオカ、タキデンキ、生活支援コーディネーターが中心となり、ピナ店2階のタキデンキのフリースペースで「マツオカピナサロン」が立ち上がりました。

活動内容は健康体操、落語、介護予防のお話など、毎月異なる企画を実施しています。茶話会では、1階の喫茶店からコーヒーを注文することができるのも特徴です。またピナ店はフィットネスジムやドローン製作スペースがあり、各お店とも協力しながら活動を進めています。



活動団体情報

【活動団体】：マツオカピナサロン

【開催日時】：毎週第1水曜日

午前10時～11時30分

【開催場所】：ピナ店2階 タキデンキスペース

生活支援コーディネーターのつぶやき

マツオカピナサロンに参加する方々は、ピナのお客さんでもありますが、サロンへの参加によってお知り合いになった方もいて、地域でつながる場所や方法はいろんな形があることを学びました。



2 実践事例（第2層 中部圏域）

③【古知野区】 ほのぼのサロン ～江南市内におけるサロンの源流～



活動内容/特徴

- ☞参加者の一人が中心となり、みんなで体操しながら交流
- ☞三味線や合唱団等呼んだり、近くの喫茶店でお茶をしたりとプログラムは様々
- ☞江南市内初のサロンで平成15年から続いている

活動のきっかけ

全国的に高齢者の居場所の必要性が認識され始めた中、江南市内に高齢者が気軽に集まれる居場所がないことが課題となっていました。社協だよりでサロン活動に賛同する人を集め、活動が始まりました。

生活支援コーディネーターの役割、支援内容

- ・協力者募集、サロン活動の説明
- ・企画のアイデア提案
- ・運営面の継続的な支援と相談（新たな団体の紹介等）



地域づくりのすてきなポイントに注目



参加者も大切な役割担う みんなで作るサロンの場！！

サロンが始まると、まず全員で簡単な運動をしています。この時、参加者から「先生」という呼び名で慕われている1名の参加者が「今〇〇を伸ばしているんだよ～」と声を掛けながら仕切ります。

その後、その日のプログラムに移っていきます。このプログラムは、参加者全員にアンケートを取り、人気なものを抜粋して作成しています。参加者からプログラムが提案されることもあります。時には会場を飛び出し、近くの喫茶店に行くことや、バスに乗って小旅行に行くことも。

その日のプログラムが終わると椅子や長机を90歳代の参加者も含め、一人ひとりができる範囲で、助け合いながら片付けます。

15年以上続くなかで自然と参加者も役割をもって参加できる場になっています。



活動団体情報

【活動団体】：ほのぼのサロン（ふれあい・いきいきサロン）

【開催日時】：第2、4金曜日 午前10時～正午

【開催場所】：老人福祉センター



生活支援コーディネーターのつぶやき

参加者の様子を見ているとサロンの参加者は「お客さん」じゃない、サロンはみんなで作る場なんだという気持ちが伝わってきます。役割の持てる居場所は行く意欲が増しますね。



2 実践事例（第2層 中部圏域）

④【飛高区】 飛高運動教室

～運動だけに留まらず 学びの活動を展開！！～



活動内容/特徴

- ☞週に1回、1時間講師の先生が来て、みんなで運動
- ☞参加者からお金を集めて、講師にお支払い
- ☞定期的に運動教室の前の時間に生活に役立つ講座を開いている

活動のきっかけ

飛高区に住む一人の方が「地域で運動したい」という思いを強く持っていました。この思いを地域にどう発信していくか、その方と市、包括支援センター、生活支援コーディネーターが何度も話し合いを重ね、周りを巻き込みながら活動が始まりました。

生活支援コーディネーターの役割、支援内容

- ・他地区の情報提供（運動教室の始める際の流れ、継続に向けての動き）
- ・周知・広報支援
- ・運営面の継続的な支援と相談





“運動”と“学び”のある居場所として活動広げる！

運動できる居場所として立ち上がった飛高運動教室ですが、参加のお誘いをした際「運動はちょっと・・・」と断られることがありました。お年寄りに外出の機会を作りたいという思いから始まったこともあり、何とかできないかと代表の方が思いを募らせるようになりました。

運動教室が始まって1年過ぎ、運営が安定してきた頃、①歩いて行ける距離に学べる場がないこと、②会場を借りている時間区分の関係から、運動教室が始まる前の時間も会場が使えることに着目。江南市の職員が地域に出向き講座を開催する「市政よもやま塾」を運動教室の前の時間に取り入れ、「飛高運動教室サロン」を開催することになりました。

これまでのテーマは「防災・減災」「消費生活」「ごみ問題」等、幅広く実施しています。サロンの開催により、運動をしたい人、講座で学びを深めたい人、両方楽しみたい人など、それぞれの用途に合わせて参加者が会場に見えるようになりました。



活動団体情報

【活動団体】：飛高運動教室

【開催日時】：毎週火曜日

午前10時30分～11時30分

【開催場所】：飛高会館

【活動団体】：飛高運動教室サロン

【開催日時】：原則偶数月の第2火曜日

午前9時15分～10時15分

【開催場所】：飛高会館

生活支援コーディネーターのつぶやき

この活動は地域に熱い思いを持った人が活躍しています。その人の思いと地域の人々の声がつながることで、さらなる活動が広がっていく様子を見ると地域の力を感じます。



2 実践事例（第2層 南部圏域）

⑤【安良区】安良健康サロン

～グランドゴルフの仲間から地域の活動に展開～



活動内容/特徴

- ☞ グランドゴルフ後にコーヒー飲みながらおしゃべりタイムをしている。
- ☞ 地元に住むヨガの先生を招いて、ヨガで健康づくりの体操を実施中。
- ☞ 毎月1回、自分たちで企画を考えて実施中（ボッチャ、カラオケなど）

活動のきっかけ

地区でグランドゴルフの活動を行っていた際、参加者が足を怪我して参加できない状態になった。メンバーの話し合いの中で「介護予防ができるような居場所がほしい」「気軽にみんなと会って話したい」という意見があり、活動につながりました。

生活支援コーディネーターの役割、支援内容

- ・ 協議の場への参加、アイデア提案（役員会議への参加、話し合いの機会づくり）
- ・ 町内の方が参加しやすいようなイベントづくり（お花見会、クリスマス会）
- ・ 運営面の継続的な支援と相談（関係機関との調整等）





地域づくりのすてきなポイントに注目

地区内の保育園と交流事業に展開！？ お花見会を実施！！

サロンの活動も順調に運営でき、平均参加者人数も40名近くの方が集まり、みんなで参加してきたところ。グランドゴルフを行う境内の隣の保育園でフェンスから園児がのぞき「何しているの～」など、地域の活動に興味を持っている状況でした。生活支援コーディネーターとしても地域のつながりづくりにつなげたいという想いから、保育園の先生方、地域の方たちと一緒に話す機会を設け、お互いの活動紹介と地区でできたらいいなと思うことを話し合いました。

「地域で活動している大人の方と園児が関わる機会がほしい」との声があがり、年に1回何か活動できないかとサロンスタッフを中心に話し合いを重ね、境内でお花見会を実施することになりました。綿菓子機やポップコーン機で園児を楽しませていました。



活動団体情報

【活動団体】：安良健康サロン（ふれあい・いきいきサロン）

【開催日時】：毎週金曜日 午前10時～正午

【開催場所】：安良会館



生活支援コーディネーターのつぶやき

定期的にスタッフがミーティングを行いながら、計画づくりをしていて、スタッフが得意なことを活かした活動を積極的に実施していました。訪問するととても元気がもらえる団体です。



2 実践事例（第2層 南部圏域）

⑥【小折東区】観音寺サロン

～お寺の運営維持と地域の憩いの場の展開～



活動内容/特徴

- ☞ お寺の雰囲気も生かした、誰でも参加できる活動を実施中。
- ☞ 民生委員と老人クラブとの協力で参加者の呼びかけやお互いの活動を支援。
- ☞ 使用されていないお寺を活用し、建物の維持管理、清掃なども行う。

活動のきっかけ

地区で歩いて行ける範囲で居場所がほしいこと、地区の中で普段使用されていないお寺を維持管理していきたい。お寺でサロンを行うことで、その困りごとが一度に解決されるということで活動につながった

生活支援コーディネーターの役割、支援内容

- ・ 運営面や他の地域活動の取り組み紹介、広報依頼など（啓発活動）
- ・ 運営面の継続的な支援と相談（関係機関との調整など）
- ・ ボランティアの講師などのマッチング（情報提供）





サロン開催時、両手に新聞紙！？ 古紙回収で自主財源確保！！

立ち上げ当初から民生委員、老人クラブ、地域住民、生活支援コーディネーターで集まり「お寺の有効活用」「一人暮らしの方」「移動の困難な方も歩いて来ることができる居場所でありたい」と話し合いを重ねてきた観音寺サロン。スタッフで協力して呼びかけ、声かけを行い、現在では多い時で70名近くの参加者見える地域の居場所になっています。

自主財源の確保の一環として、市内業者に協力しながら、古紙回収をサロンの運営のために集めており、一人ひとりが協力者として、参加時に両手に新聞紙を持つ姿がよく見えます。その他にも保育園との交流活動や地元の企業や施設との協力体制など、幅広く活動を展開しています。



活動団体情報

【活動団体】：観音寺サロン（ふれあい・いきいきサロン）

【開催日時】：毎月第1木曜日 午後2時～4時

【開催場所】：観音寺



生活支援コーディネーターのつぶやき

毎回行くとたびにお寺がパワーアップしている印象があり、地域の方が集まるお寺になっている感じがあります。参加者やスタッフも誰でも迎え入れてくれる雰囲気がとても好きです。



みんなで考え、みんなで作る 地域の支え合いのしくみ

～生活支援体制整備事業～

住みなれた地域で自分らしく暮らし続けるためには、**住まい** **医療**
介護 **介護予防** **生活支援** が一体的に提供される暮らしをつくること
が必要です。

地域の見守りや居場所づくり、買い物支援など、地域の支え合いを
みんなで考え、みんなで作ることが求められています。

そんな地域の支え合いのしくみを

生活支援コーディネーターが

お手伝いします

地域で活動する住民や様々な
分野の専門職など、地域につな
げるお手伝いをします！

歩いて通える居場所や地域で
話し合いの機会をつくるお手
伝いをします！

各地域での支え合いの取り組
み紹介など、情報を伝えるお手
伝いをします！

情報

支援

生活支援コーディネーター
江南市社会福祉協議会に3名配置

まずはお気軽にご連絡ください！



社会福祉法人 江南市社会福祉協議会

江南市古知野町宮裏121番地（老人福祉センター内）

電話・FAX：0587-55-5262

メール：info@konan-shakyo.or.jp

担当：生活支援コーディネーター（伊藤、鈴木、小森）

ホームページのQR
詳しい情報はこちら



生活支援コーディネーター の主な取り組み紹介

社会資源や地域の困りごとの把握、情報提供

地域の社会資源について情報を集めて、必要としている方に情報を届ける
ことができるように活動しています。また地域の多様な困りごとなど、住民
や関係機関などと協力しながら把握及び解決に向けた話し合いを進めます。



【地域の取り組み把握、周知、支援】

▲子どもから大人まで多世代交流



【ふれあい・いきいきサロン支援】

▲地域で仲間づくり、健康づくり



【地域の情報把握、情報提供など】

▲民生委員定例会に参加、活動周知など

様々な場を活用して、集える居場所づくり

公民館や地区の公会堂、施設、商業施設の空きスペース、お寺などを活用
して、茶話会や歌、運動などを通じ、参加者の仲間づくり、健康づくりを行
う「居場所づくり」支援を進めます。



地区の公会堂を活用
歌を通じた交流活動の場



お寺を活用
健康づくりを学べる場



喫茶店を活用
コーヒー囲み茶話会の場



商業施設を活用
みんなで健康体操の場

生活支援コーディネーターは、社会資源や地域の困りごとを
把握し、地域に応じた支え合いを住民や関係機関などと
協力してつくる取り組みを進めています

まずはお気軽にご連絡ください！



社会福祉法人 江南市社会福祉協議会

江南市古知野町宮裏121番地（老人福祉センター内）

電話・FAX：0587-55-5262

メール：info@konan-shakyo.or.jp

担当：生活支援コーディネーター（伊藤、鈴木、小森）

ホームページのQR
詳しい情報はこちら



**令和元年度
みんなで考え、みんなでつくる
地域の支え合い事例集
～江南市生活支援体制整備事業～**

発 行	江南市 健康福祉部高齢者生きがい課 愛知県江南市赤童子町大堀 90 電話 0587-54-1111（代表） F A X 0587-56-5515 メール kaigo@city.konan.lg.jp	社会福祉法人江南市社会福祉協議会 愛知県江南市古知野町宮裏 121 電話・F A X 0587-55-5262 メール info@konan-shakyo.or.jp
発行年月	令和2年4月	